

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-40185

(43) 公開日 平成7年(1995)7月18日

(51) Int.Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 4 3 K 8/02 3/00		F	B 4 3 K 8/ 02	K

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願平5-70100

(22) 出願日 平成5年(1993)12月27日

(71) 出願人 591033076

中国画材株式会社

岡山県岡山市丸の内1-1-6

(72) 考案者 宿輪 吉之典

東京都渋谷区本町3-2-6

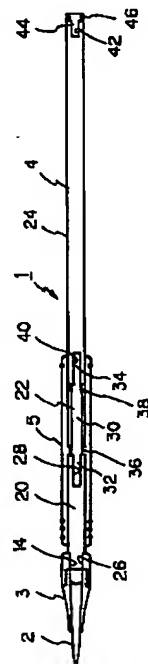
(74) 代理人 弁理士 湯浅 恭三 (外5名)

(54) 【考案の名称】 絵画図案用筆

(57) 【要約】

【目的】 筆の重心位置を自由に調節可能な絵画図案用筆を提供する。

【構成】 穂先2と、該穂先2を固定している穂先金具3と、該金具3に下端が取り付けられている軸4と、該軸4に沿って移動可能な中空のグリップ5と、から構成されており、該グリップ5が軸4の長手方向に対して移動かつ静止可能となっている。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 穂先2と、該穂先2を固定している穂先金具3と、該金具3に下端が取り付けある軸4と、該軸4に沿って移動可能な中空のグリップ5と、から構成されており、該グリップ5が軸4の長手方向に対して移動かつ静止可能となっていることを特徴とする絵画図案用筆。

【請求項2】 軸4がその中間部分に所定の間隔をおいてねじ36、38を有しており、このねじに前記グリップの中空内面に設けたねじが螺合することを特徴とする請求項1の絵画図案用筆。

【請求項3】 軸4がその中間部分にねじを有しており、このねじに前記グリップの中空内面に所定の間隔をおいて設けた一対のねじが螺合することを特徴とする請求項1の絵画図案用筆。

【請求項4】 軸4が、下端部材20と、中間部材22と、上端部材24と、から構成され、ねじ36、38が該中間部材22に設けてあることを特徴とする請求項2の絵画図案用筆。

【請求項5】 軸4が、下端部材20と、中間部材22と、上端部材24と、から構成され、中間部材22が、下端部材20と、又は上端部材24と、一体的に構成されていることを特徴とする請求項3又は4の絵画図案用筆。

【図面の簡単な説明】

*

2

*【図1】 グリップが軸の穂先側に固定されている状態を示す。

【図2】 グリップが軸の穂先側から離れた位置に固定されている状態を示す。

【図3】 グリップが軸の穂先側に固定されているときのグリップと軸との関係を示す図である。

【図4】 グリップが軸の穂先側から離れた位置に固定されているときのグリップと軸との関係を示す図である。

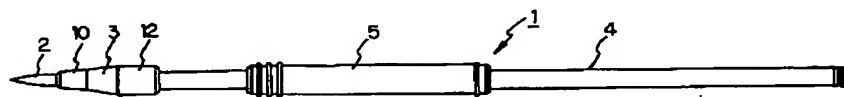
【符号の説明】

1 絵画図案用筆	2 穂先
3 穂先金具	4 軸
5 グリップ	10 穂先固定具
12 穂先軸固定具	14 孔
20 下端部材	22 中間部
24 上端部材	26 ねじ
28 孔	30 中央部
32、34 縮径部	36、38
40、42 ねじ	44 尾冠
46 溝	48 孔
50 内ねじ	52 シリコンリング

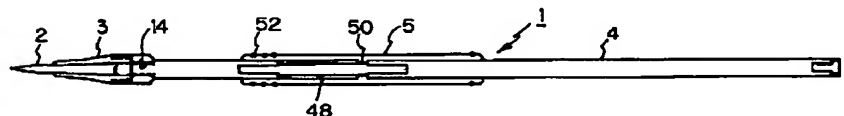
【図1】



【図2】



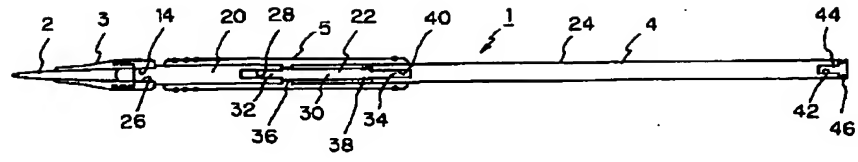
【図4】



(3)

実開平7-40185

【図3】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、筆、特にデザイン又はイラスト等を専門とする人々が使用するのに適した絵画図案用筆に関する。

【0002】**【従来の技術】**

今日の色彩豊かな商品社会において、商品に付加されるデザイン又はイラスト等は一層多くの色彩を駆使した派手やかなものとなって来ている。このためかかる商品を作り出す多くのデザイナーやイラストレーター達は、その商品作成に際して使用する筆について、使用すべき色彩又は描かれるべき線の太さ等に応じて多くの絵画図案用筆を必要としている。一般にこのような筆は、その穂先の大きさによって細、中、太等に分類されており、使用者は、自己の仕事内容や、筆の握り具合、又は筆の重さ等によって、適宜自分に最適なものを選択して使用している。

【0003】

しかして現在使用されている絵画図案用筆は、その多くが、穂先と該穂先を固定している金具と該金具が取り付けある軸とが、取り外し不能に一体的に組み付けてある。このためデザイナー等は、描くべき線の太さにより、又は、施色すべき色彩の種類により、それぞれ専用の筆を用意することになり、結果的には数十本の筆を用意しなければならず、その結果、デザイナー等の机即ち作業台の上が長い絵筆で一杯になり、本来の作業に困難をきたすということすら発生していた。

【0004】

かかる不便を解消するため、先に同一出願人は、絵筆のうちの軸の部分だけを共用可能とした筆を発表した。多くの場合、所定のデザイン又はイラスト等において同じ色彩及び同じ太さの線の部分は同じ筆を使用して一度に仕上げていくことが多く、一度使用した筆はその作業が完了するまで再度使用するということは少ない。このため、一度使用した筆の軸部分を次ぎに使用する筆に付け替えるこ

とにより、デザイナー等の本来の作業性に影響が発生するといことはなく、上記のように軸部分を共用可能としたことにより、少なくとも筆の長さの大部分を構成している軸の部分は最小限の本数に限定出来、結果的に該作業台の上に置かれるべき筆が占めていた面積が半減したのである。

【0005】

【考案が解決しようとする課題】

上述の提案はデザイナー等に対して多大の貢献をしている。しかしながら、デザイナー等の創作作業には絵筆の重さ、特に絵筆の微妙な重心位置の変化が作業上大きな影響を与えている。即ち、一般には、同じ筆であっても、綿密なかつ繊細な描写を行う場合には絵筆の重心位置が筆の下方部分にあるものが好ましく、反対にある程度ラフな描写を行う場合には絵筆の重心位置が筆の上方部分にあるものが作業性上好ましい。このため、これまでデザイナー等は、ある場合には筆の上端部に、また、ある場合には筆の下端部に輪ゴム等を取つけて重心調整を図りながら作業を行うこともあった。

【0006】

これは、今まで、一本の筆において、または上述のような共用軸において、筆の重心位置を自由に調節可能なものは発表されていないためである。このため、本件考案は重心位置を調節可能な絵画図案用筆を提供するものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】

筆の軸部分に上下にスライド可能なグリップを設け、該グリップを少なくとも上下2カ所において停止可能なねじ手段を設けた。

【0008】

【作用】

使用者は、施色作業内容に応じて、グリップを自由に筆の上下方向へ移動して、筆の重心位置を簡単に変更し、これにより、使用する筆の重心位置が常に最適位置にくるように調整して、所望の施色作業を行うことが出来るようにした。

【0009】

【実施例】

本考案の絵画図案用筆1は、図1及び図2に示すように、穂先2と、該穂先2を固定している穂先金具3と、該金具3に下端が螺合している軸4と、該軸4に沿って移動可能なグリップ5と、から構成されている。図1は、グリップ5が穂先側（以下、下側という）にある状態を示し、一方、図2はグリップ5が穂先側から離れた位置（以下、上側という）にある状態を示す。

【0010】

穂先金具3は、真鍮その他の金属部材から構成されており、穂先2の先端に向かって先細りの状態に収斂している穂先固定部10と、該穂先固定部10の前記穂先2に対向する方向へ向かってほぼ同一直径を有して伸長している穂先軸固定部12と、を有している。更に、該穂先金具3の穂先軸固定部12には、図3及び図4に示すように、穂先固定部10の方向へ向かって伸びている孔14が設けてあり、該孔14には所定ピッチのねじが切つてある。

【0011】

軸4は、好ましくは同様に金属材料から構成されている。該軸4は好ましくは、図3及び図4に示すように、下端部材20と、中間部材22と、上端部材24と、によって形成されている。

【0012】

下端部材20は、全体を通してほぼ同一の直径を有している。また、その一端には、前記穂先金具3のねじ付き孔14に螺合するねじ26が設けてある。一方、その他端には、中間部材22の一端部を受け入れ固定するための孔28を有している。

【0013】

中間部材22は、全体にわたって前記下端部材20の直径よりは小さい直径を有している中央部30と、その左右両端部にあって該中央部30より更に小さい直径を有するそれぞれ縮径部32、34と、を有している。また、該中央部30の両端部にはそれぞれ所定のピッチのねじ36、38が切つてある。ねじの向きは互いに同一方向でも反対方向でもよい。一方の縮径端部32は、前記下端部20の孔28へ受け入れられかつそこへ固着されている。固着するための手段はねじ込み、接着剤その他の公知の手段がある。

【0014】

上端部材24は、全体を通して前記中間部材22の中央部30の直径より大きい直径を有しており、好ましくは下端部材20の直径とほぼ同一の直径を有している。また、その一端には、前記中間部材22の他方の縮径端部34を受け入れかつ固着するための孔40が設けてある。固着するための手段はねじ込み、接着剤その他の公知の手段がある。またその反対の端部には同様に小さい孔42が設けてあり、ここには好ましくは樹脂によって一体的に成型された尾冠44が取り外し自在に嵌合されている。該尾冠44は例えば、使用中の筆の色彩を識別するため種々の顔料が混入された樹脂により形成され、使用中の筆の色彩に対応する色彩を有する尾冠44を装着出来るようにしてある。又は、尾冠44に溝46を形成し、該溝46には使用中の色彩を識別出来る色彩を染め混むことも可能であろう。

【0015】

グリップ5は、好ましくは前記軸4と同様の材料によって、長手方向に貫通する孔48を有する中空部材により構成されている。該グリップ5は、概ね前記軸4の下端部材20と、中間部材22と、を合計した程度の長さを有しており、また該中空部材の内径はほぼ前記下端部材20及び上端部材24の外径より僅かに大きい寸法を有し、それらの部材20、24の表面上を滑動している。孔48のほぼ中央部分には、前記中間部材22の中央部30の両側部分に設けたねじ36、38に螺合する内ねじ50が設けてある。また、該グリップ5の外側面には、滑り止めのためのシリコンリング52が複数本配置されている。

【0016】

しかして、軸4を組み立てるときには、初めに中間部材22にグリップ5を挿通し、該グリップ5の内ねじ50を中間部材22の一方のねじ（例えばねじ36）へ螺合させ、次いで、該中間部材22の他方の縮径端部34にねじ又は接着剤等により軸4の上端部材24を嵌め込み固定する。次いで該グリップ5の内ねじ50を中間部材22の他方のねじ（例えばねじ38）へ螺合させ、次いで、該中間部材22の他方の縮径端部32にねじ又は接着剤等により軸4の下端部材20を嵌め込み固定すればよい。

【0017】

本件考案においては、使用者はグリップ5の位置を図1に示す下方位置へ配設し図3に示すようにグリップ5の内ねじ50を中間部材22の下方のねじ36へ螺着することにより筆の重心を穂先側に移行することが出来、また、使用者がグリップ5の位置を図2に示す上方位置へ配設し図4に示すようにグリップ5の内ねじ50を中間部材22の上方のねじ38へ螺着することにより筆の重心を穂先側から尾冠側へ移行することが出来るのである。こうして、使用者は、自分の好む最適位置へ重心が移行した状態において、施色作業を行うことが出来るのである。

【0018】

上述の実施例においては、グリップ5の中空内面中央部に設けた内ねじ50が中間部材22の中央部30両側にあるねじ36、38に螺合する構成となっているが、本件考案はこれに限定されることなく、グリップ5の中空内面両端部にそれぞれ内ねじ50を設け、これらの内ねじが中間部材22の中央部30の中央部分に形成したねじに螺合する構成とすることも可能である。

【0019】

更には、上述の実施例において、軸4を構成している、下端部材20と中間部材22とを一体的に構成すること、又は中間部材22と上端部材24とを一体的に構成することも可能である。

【0020】

【考案の効果】

施色作業内容に応じて、使用者は、グリップを自由に筆の上下方向へ移動してそこに固定し、使用する筆の重心位置が常に使用者によって最適位置にくるように簡単に調整変更することが出来、これにより、使用者が所望の施色作業を最適状態にて行うことが出来るようにした。